

期待する事

日本歯科医学会

会長 住友 雅人

学会長の目標は、「歯科界からノーベル賞を」です。決して破天荒な目標ではないと思っています。日本人のノーベル賞受賞者が言われた、「20歳代から30歳代に」「自分の好きなことがあったら一生懸命に取り組む」ことを実現していくには、どのような応援ができるのでしょうか。

今、歯科大学・歯学部教員は学生の特性をよく見極め、その特性に応じた分野へのチャンスを与えるようにと私は提言しています。臨床分野だけが注目されがちな歯科にあっても、研究が特性という学生を見極めてチャンスを与えられる組織体制が必要になるでしょう。また若者が選択し、やる気を起こすような研究分野を創出するためには、歯科界全体が活性化しなければなりません。若者の取り組みぶりを評価して、チャンスを与え、伸ばすことができる良い指導者も育てなければなりません。生活をエンジョイする上において、人々にとって歯科の存在意義は十分に高い。社会に認められる研究には高いコンプライアンスの遵守が必要です。

私は、歯学部卒業生だけが歯学系の研究者ではないと考えています。いま現在、歯科医療の現場では、医学部や薬学部はもちろんですが、他の分野とのコラボレーションが強く求められています。例えば、獣医学部、工学部、理学部、家政学部、国際学部、情報学部など。これに限らず、今は考えられないような分野との結びつきも見据えて、将来、さまざまな業界で学ぶ若者たちがその希望や能力を持ち寄ってさらに大きな夢を追いながら活動できるような、そういう場を学会は提供していきたいと思います。

歯科界ができることは限られていると考えているみなさん、歯科界にこそ、できることは多いのです。

今回、待望の JADR との共催シンポジウムが実現しました。このシンポジウムで刺激を受けた研究者の仕事が、ノーベル賞に向かって一段と加速されることを願っています。